

2 山羊放牧による未利用地管理を行うための簡易器具

キーワード	山羊、放牧、雑草管理、未利用地、獣害対策
担当	長野牧場 種苗課
連絡先	電話：0267-67-2501 ファックス：0267-68-4743 電子メール：nlbc_nagano@nlbc.go.jp

1 背景・ねらい

近年、中山間地域では高齢化や労働力不足を背景に農地の遊休化が問題となっています。このため、遊休化した農地において、電気牧柵システム等を用いて肉用牛放牧を行う取り組みが全国で普及されつつあります。また、農地形状等の条件によって牧柵の設置が困難な場合には、ロープで繋いだ山羊を放牧する手法が効果的であり、こうした取り組みが徐々に広がりつつあります。

しかし、山羊をロープに繋いで放牧する手法は、ロープが支柱等に絡まってしまい山羊の行動範囲を狭めてしまうなどの支障をきたすことがあります。

そこで、ロープが絡まず、十分な山羊の行動範囲を確保するための工夫を考案しました。

なお、山羊を放牧することにより、農地への猿害防止効果があったとする例もあり、今後獣害対策を兼ねた利用も期待されます。

2 内容・特徴・効果

(1) 支柱式放牧器具

通常、支柱頭部にロープを直結していますが、これでは支柱にロープが絡まりやすく山羊の行動範囲が狭めてしまうことが多々あります。

そこで、足場材、円盤状金具及び金ピンを使って特殊な支柱を作製し、ロープが旋回しやすく、しかもロープが支柱に絡みづらくなるように工夫しました。また、ロープもゴムホースでカバーすることにより、ロープに絡まないように工夫しました。

(2) ワイヤー式放牧器具

通常、2本の支柱の間にワイヤーを張り、ワイヤーにロープを移動できるように繋いでいますが、これでは山羊が支柱の周囲を旋回したときに支柱にロープが絡まり、山羊の行動範囲が狭めてしまうことがあります。

そこで、支柱の横に板を設置して、山羊が支柱の周囲を旋回しないように制御する工夫をしました。

なお、設置した板は、休息するための日陰を作る効果もあります。



写真1 支柱式放牧

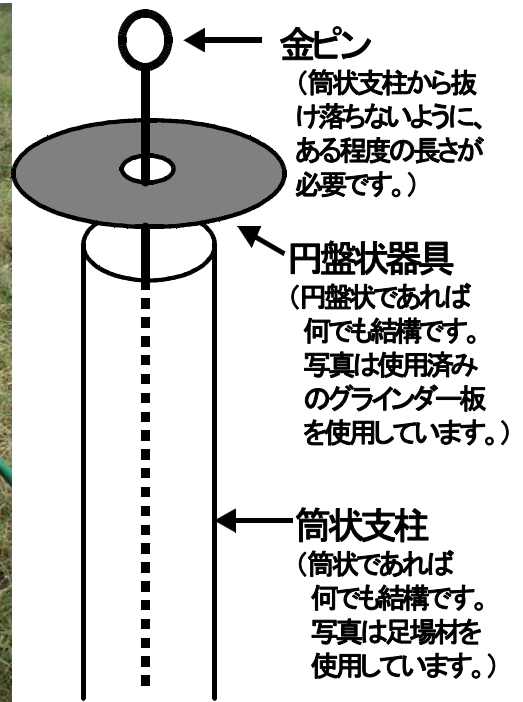


図1 支柱の構造

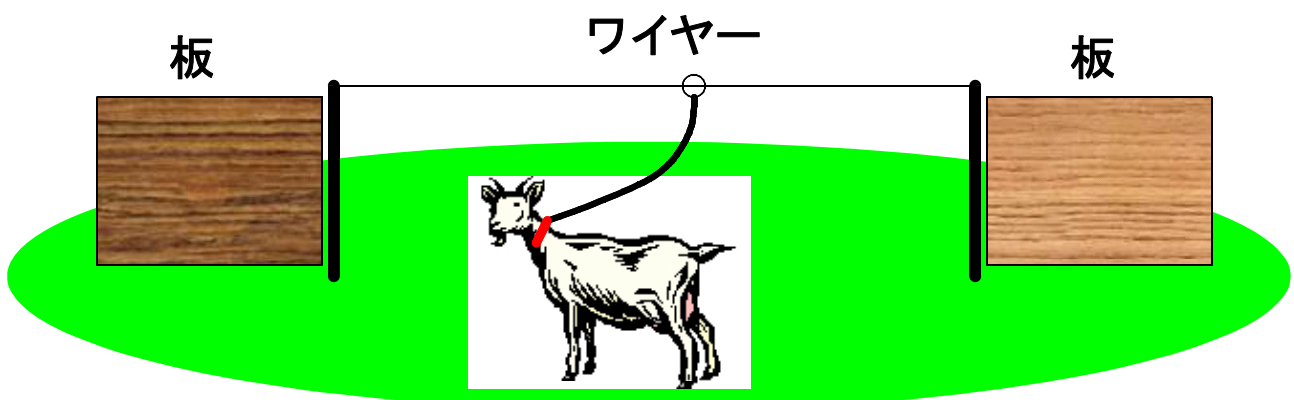


図2 ワイヤー式放牧